



## 祝 100号到達!

ふっさのゆみ、いつもご愛読ありがとうございます。  
おかげさまで100号に到達しました。手書きの時代を含めるとさらに長い歴史になります。昔の号を振り返ることで、過去に学び、新たなアイデアも生まれます。ここに記念号を発行し、さらなる発展の礎としましょう。これからもご愛読をお願いします。(瓦版屋)

### 100号に寄せて

#### 堀部会長より「記念すべき100号にあたり」

立春が過ぎ春めいて来ました。会員皆様ご健勝のことと思います。瓦版第1号は、平成7年5月長谷川副会長の発案で、椎名さんが担当し発行されました。当時は夜の稽古に大勢集まり、時には居酒屋で弓道談義。豊富な内容に時間を忘れる弓飲仲間でした。その後瓦版は佐藤さん、類家さん、万場さん、三浦さん、山口さんに引き継がれています。行事や試合結果、各種情報と連盟運営に欠かせない存在です。100号まで担当した皆様に感謝し御礼申し上げます。

#### 長谷川副会長より

継続すること、弓道上達の条件。この「ふっさのゆみ」100号の快挙はまさに弓道人の手本。それを支えた会員と編集人に感謝。休み休みでも今ある弓と自分。楽しみと苦しみの継続 そんなのが弓道。明日は満足感のある射がでるのかな。

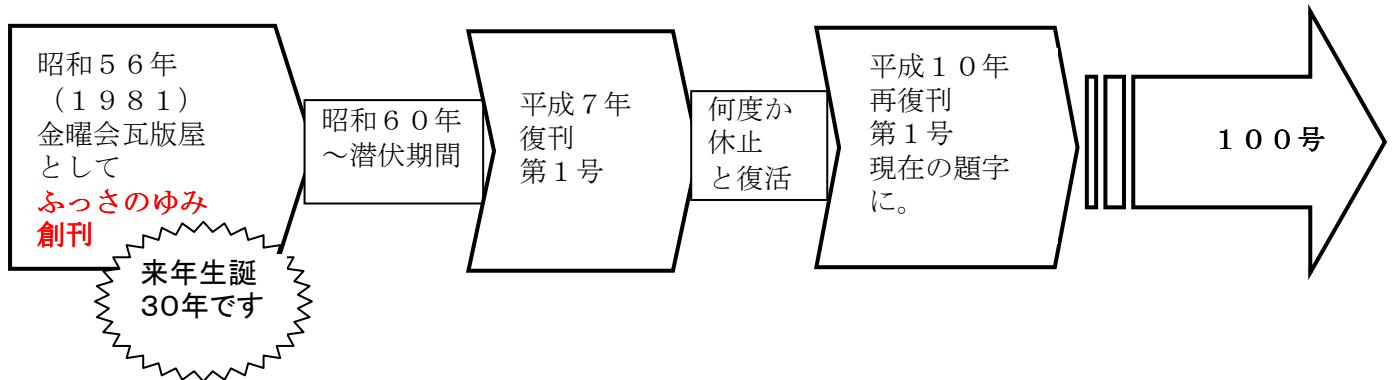


#### 池田副会長より

「ふっさのゆみ」と池田との係わりで、何があるのかなーと考えてみました。それはホームページ(福生市弓道連盟)との縁にありました。実は、今のホームページを作成した日時は、1999年12月31日深夜でした。この日は、コンピュータ業界で「Y2K問題」として騒がれ、池田もトラブル対応要員として職場に待機しておりました。幸いトラブルも殆ど無く、この空き時間を利用して不謹慎にも「ホームページ」を作成したのです。調査の結果、ホームページに掲載した「ふっさのゆみ」は第10号でした。記事を拾ってみると、「金曜射会:万場さん優勝」「三浦式段昇段祝射会開催」「忘年会リラックス」等々、懐かしく楽しい話題が盛りだくさんでした。第10号の主題は「今年も弓三昧」、そして第100号になっても「弓三昧」。「ふっさのゆみ」100号到達、本当におめでとうございます。



100号のおゆみ 100号のおゆみ 100号のおゆみ 100号のおゆみ 100号のおゆみ



# ヒストリア ヒストリア ヒストリア ヒストリア ヒストリア

(100号に見る歴史秘話)

平成7年  
赤○赤×はこの頃  
もうあったらしい。

平成10年  
連盟創立30周年。  
とすると今年は？



100号に見る<歴代合宿先>  
修徳館／宝山荘、  
塩山・水上山荘、  
シルクの里・与一弓道場

平成12年  
池田さん  
ホームページを  
立ち上げ

平成12年  
月例で30中  
超えの優勝と  
瞬間最大に弦  
の贈呈開始

100号に見る<歴代懇親会場>  
福生名物の懇親会。忘年会や祝賀会で熱い  
弓道談義を交わした会場を紙上から拾い  
ました。皆さんはどこから参加？  
(見落としご容赦)  
庄屋、多賀、魚観荘、夢、リラックス、  
鉄兵、やまざき、黒茶屋、藤屋

平成12年  
池田さん  
国体出場！

平成14年  
冬の味方  
ビニール  
カーテン導入

平成14年  
百射会で会3秒  
以下に¥30の  
罰金適用

福生には職人が多く、昔  
から手作りで道場を良く  
したり修繕してきたこと  
が随所に見られます。

平成14年  
都民大会初の  
3位入賞！



平成14年  
百射会で  
鳥羽さん92中  
の快記録樹立！

平成18  
森千鶴子さん  
国体出場！

平成18年11月  
～19年3月  
耐震工事で道場  
閉館



平成19年  
都民体育大会  
輝く初優勝！

幕は平成12年、17年、  
21年に新調されたと  
あります。通算何代目？

平成20年  
市町村大会  
初優勝！



# 歴代瓦版屋手記



## 椎名さん（創世記から復刊1号－12号）

「ふっさのゆみ」はかつて編集者「金曜会瓦版屋」として、昭和56年(多分)秋頃に創刊されました。発案者の長谷川先生から情報を得て、ネタ集めや記事づくりを岩市・椎名が手書きでつくりました。その当時の福生市弓道連盟初代会長は、熊川に個人道場を有しており、第3地連関係の情報が体育館道場に伝わりにくい状況にありました。体育館の弓道場で練習する会員に様々な情報を伝えようということで生まれました。5年ほど続き、その後10年間ほど育児休暇により途絶えてしまいました。1985年5月に編集者「瓦版屋」で復活し、しかもワープロになり読みやすくなりました。その後も何度か短い中断を繰り返してしまいました。その後、「瓦版屋」も代替わりをし、佐藤さん、万場さん、類家さん、三浦さん、そして現在の山口さんに引き継がれてきました。以上のような経過から、実は正確には現在何号かは？です。しかし、遡ることができる号から数えても100号を迎えることは素晴らしいことです。古い「ふっさのゆみ」をお持ちの方がいたらコピーして、福生市弓道連盟のひとつの歴史としてバックナンバーを揃えたいですね。

## 類家さん（再復刊第1号－23号）

「ふっさのゆみ」もたくさんの会員に引き継がれ、個性豊かに貴重な情報を送り続けてくれています。携わった編集員としてはこの上ない喜びと、感謝の気持ちで一杯です。これからも福生弓道連盟が続く限り、ふっさのゆみが会員相互の潤滑油……コンドロイチン（高齢化社会ではこちらの方かも）になり「和楽」の道場が続くことを願っております。

昔の瓦版編集局



## 三浦さん（第24号－83号）

「ふっさのゆみ」発刊100号。早いものですね。私は24号から83号まで担当させていただきました。この6年の間に新規入会・再開された方は32人を数えました。池田さんHPの「ふっさのゆみ」を見て福生市弓道連盟の活動・活躍を知り初心者教室に参加したと言う方も多く、「ふっさのゆみ」の広報性も痛感しています。会員の増加だけではなく各大会での優勝、入賞とレベルも確実にUPしてきています。これからも福生市弓道連盟のますますの活躍と「ふっさのゆみ」が盛りだくさんのニュースで飾られますことを期待したいですね。

## 現瓦版屋 山口（第84号－）

任期中に100号という金字塔を経験することになり、幸運です。記念号の編集にあたり、保存版を何度か繰り返し読みました。第1号の石川よし美さんの言葉に引かれました。四段昇段祝射会へのお礼の言葉です。「私は弓道が好きでたまりません。弓を引いている時が楽しくて楽しくて、。弓の引ける事ー感謝」素晴らしい言葉ですね。これからもこのような感動的な言葉を届けられたら良いのですが。手書きやワープロで発行された時代、頭が下がります。むかしの号を見ていると、ためになることもあります。まさに温故知新です。記事の内容ももっと多彩にできるかなど。皆さん、お気軽にアイデアをください。これからも応援よろしくお願ひします。